

2024年度 町田市立金井小学校 学校経営方針

町田市立金井小学校
校長 須藤 潤一郎

I 学校経営の基本理念

「子供と大人の笑顔あふれる学校」 ～ 目指す学校像、目指す教師像

1978年（昭和53年）開校した本校は、今年度創立46周年を迎える。その間、多くの諸先輩の教職員の努力と地域・保護者の方々の協力によって、よき伝統、よき校風が築かれてきたと考える。そして本校は、地域に根ざした教育を展開し、多くの卒業生を送り出してきた。その地域が学校に寄せる期待は極めて大きいと受け止めている。

この期待に応えるために、金井小の伝統を守り、新しい時代の教育的要請にも応えながら、金井小を活気のある学校にし、そこに集うすべての人々が、「子供と大人の笑顔あふれる学校」目指して「Team 金井」全員の力を合わせ、進んでいきたい。

「笑顔あふれる学校」は、子供にとっても、教職員にとっても、保護者や地域の方々にとっても共通した願いである。子供がいきいきとした学校生活を送り、教職員が子供一人一人に寄り添う気持ちを持ち、子供の個性を伸ばし、よさを発揮させる。学校はコミュニティ・スクールである特性を生かして教育活動を計画し、地域・保護者は子どもたちの笑顔のために教育活動への参画・協力者として加わることで、さらに力強い金井小になると考える。学校・保護者・地域が一体となって子どもたちの未来のために協力できる学校としていきたい。

1 子供にとっての「笑顔あふれる学校」

子供は、「勉強が分かるようになりたい」「友達と楽しくしたい」「先生に認めてもらいたい」「みんなの役に立ちたい」等、様々な願いをもって毎日登校する。子供一人一人の願いを教職員が理解し、指導することによって成就されたとき、子供は「笑顔」なることができる。そのために、常に子供の思いに寄り添う気持ちを持ち、子供の身になって考え、悩み、喜びを分かち合える教職員でありたい。

子供は日々成長をする。大きく伸びるタイミングはそれぞれにある。その成長の段階やタイミングを教職員が見取り、子供の心の奥底にある「伸びたい」と強く思う心を引き出すために、様々な大人が子供たちに関わる事が我々大人の責務である。そしてその中心が我々教職員でありたい。そのことを心に刻み、可能性を信じて教育を続けたい。

子供にとって、生き生きとした楽しい「笑顔あふれる学校」生活を送ることができるようにするために、全教職員の協力・協働の心を大切にしたい。

2 教職員にとっての「笑顔あふれる学校」

子供たちが生き生きとした楽しい「笑顔あふれる学校」生活を送ることができるようにするためには、まず、私たち教職員が「活気ある学校づくり」を目指すことが大切である。活気ある学校では、学校組織としての安定した環境、助け合える仲間関係が必要である。意見や議論が建設的で節度があり、互いに教え合い、悩みを相談したできる環境をつくることが重要である。しかし、他の一面では、決まりを厳格に守り、自らを振り返り自己反省ができる一人一人の意識から生まれる相互の磨き合い高め合いが重要である。これらは、真に楽しい

職場の重要な要素であると考え。職場に笑いがあり、笑顔が満ちた姿も生まれてくると考える。そして、その源泉は、人間的な温かさや思いやりの心である。

「Team 金井」は、それぞれの職務・職責の違いこそあれ、一人一人が金井小の子供の幸せを築く価値ある仕事を担っている。互いが、それぞれの役割を理解し、仕事がしやすいように協力し合って、生きがいをもって働ける職場づくりをしたい。また、それぞれ個の力を発揮する場面と、組織として教員集団として一枚岩で子供たちに指導・支援をする場面を明確に分け、どの教員が指導・支援をしても金井小学校として同じく対応ができるようにする。特に授業や生活の規律やいじめ防止に対する指導は学校として同じでなくてはならない。金井スタンダードを指導する教員がスタンダードをよく理解して指導することが必須である。

しかし、私たちは互いに生身の人間である。健康上の問題、家庭での様々な問題、あるいは仕事上の問題等を抱えることがある。そのようなとき、思いやりやいたわりの心で支え合い、助け合い、励まし合っていきたい。そこに、教職員の和が生まれ、信頼が育つ。このような教職員の姿は、子供に対する大きな教育力となり、生き生きとした楽しい「笑顔あふれる学校」づくりの源になると考える。

3 保護者・地域にとって「笑顔あふれる学校」

保護者は、わが子の健やかな成長を切に願う。だからこそ、子供の教育については様々な願いや悩みが学校に寄せられる。この願いや悩みに対して、まず、素直に聞く耳をもちたい。そして、保護者の願いや悩みを共に解決する中で、正しい教育のあり方に気付けるようになっていきたい。保護者は、少しでもいい子になるように、分からないことが分かるように、できないことができるようにしてほしい一念で子供を学校に通わせているのである。

地域の方々はこの金井小に深い愛着があり、学校との協力関係の中で、子供たちの健全育成を願い、学校への協力を惜しまないでいてくれている。

このような保護者や地域の学校に対する期待や願いをくみとり、コミュニティ・スクールとして、保護者や地域と共に歩む教職員の姿勢が信頼を深め、保護者・地域にとって「笑顔あふれる学校」となるのである。

以上の3点を常に意識してそれぞれの職務に当たってもらいたい。

II 金井小学校の教育目標 ～ 目指す児童像

あたたかく(徳)

かしこく(知)

たくましく(体)

III 基本方針

【社会に開かれた教育課程の実現】

○目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。

1 家庭・地域との連携を強化し、「コミュニティ・スクール(地域協働学校)」を確立する。

(1) VCと連携し、ゲストティーチャーや地域ボランティアを積極的に活用し、「金井学習」を展開する。

(2) コミュニティ・スクールを通じて、本校の教育活動を周知し、意見交換を行う。

2 積極的な情報発信と公開を通して、教育活動への理解を求める。

- (1) 学校だより・学年だより、ホームページの更新で保護者に学校の教育活動の理解を促し安心できる情報を発信する。
- (2) 学校評価・行事アンケート（運動会・学芸会・学校公開等）の回収率を上げる。

【確かな学力の育成】

- 未来を生きる子供たちが、自ら学び生きていく力を身に付けるために今、何を指導するか、どう指導するかを考えて授業を進める。
- 「**学び続ける力**」を育むために、教員は毎日の学級経営の力を付ける。主任教諭は、学年の若手教諭の学級経営力向上のため、学年経営に力を注ぐ。主幹教諭は各学級全体を見て、助言をする。
- 授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。
 - 1 授業をデザインする8つの取組を踏まえ、子どもが「分かる できる つくる 楽しい 授業」を展開する。
 - (1) 「見通しをもたせる導入」「ICT機器の活用」「価値ある対話の共有」「振り返りの設定」の4つに特化して取り組み、授業改善を図る。
 - (2) ICT機器を活用した授業を実施する。（1人1台のタブレット端末の有効活用）
 - 2 学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」子どもを育てる。
 - (1) 既習事項を活用した問題解決型、探究型の学習を展開する。
 - (2) 宿題や家庭学習に積極的に取り組む。

【豊かな心の涵養】

- 多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にできる意識・意欲・態度を育てる。
 - 1 生命を大切にできる心や他人を思いやる心、規範意識等を育む。
 - (1) 人権を相互に尊重する姿勢を育て、いじめを絶対に見逃さない生活指導。
 - (2) 「特別の教科 道徳」の授業では、道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置し、道徳的実践力を育てる。
 - 2 児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も友達も大切にできる態度を養う。
 - (1) 委員会活動、クラブ活動、異学年交流活動、実行委員会、係活動などにおいて、子どもの主体的な活動を重視する。
 - (2) 読書活動を推進する。学校図書館貸出冊数25,000冊

【健やかな体の育成】

- 正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。
 - 1 運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。
 - (1) 体育科の授業の充実を図ると共に、外遊びを奨励し、運動の日常化を図る。
 - (2) 家庭と連携し、健康教育・食育を推進する。（早寝、早起き、朝ごはん）
 - 2 安全な環境を整備し、自己・他者の心身を守る力を育成するための全校体制を徹底する。
 - (1) 遊びのルール、廊下・階段の歩行など「生活のやくそく」を守って生活する。
 - (2) 毎週金曜日に危機管理情報を共有し、必要に応じ専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め指導充実を図る。

IV 具体的な取り組み

※教育課程 1表 2表に掲示

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標（育成を目指す姿「育成を目指す資質・能力」）

日本国憲法及び教育基本法の基本理念に基づき、東京都教育ビジョン、町田市教育プラン 24-28 を踏まえ、児童が知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを目指し、次の教育目標を掲げる。

- ・あたたかく（自分を大切にし、仲間を大切にし、互いを認め高め合う子ども 人間関係形成力）
- ・かしこく（自らすすんで学び、課題に対して主体的に取り組む子ども 課題解決力）
- ・たくましく（心身ともに鍛え、仲間と力を合わせ、意欲的に行動する子ども 実践力）

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ア 地域の人々と連携・協働して児童の成長を支える地域学校協働本部を設置し、コミュニティ・スクールの充実を図り、地域や保護者とともに学校教育目標の実現を目指す。
- イ 不適切な指導や体罰の防止に努めると共に、人権教育プログラムを活用し、児童の人権を大切にされた組織的・計画的な指導を行う。
- ウ 「町田市教育プラン 24-28」における「学び続ける力」の育成を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な授業を構築する。そのために「ICTを活用した学び」の充実を図る。
- エ 教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図り、児童一人一人がもつ多様な個性や能力を十分に把握し、個に応じた指導を行い、児童の自己肯定感を高める取り組みを推進する。
- オ 町田市体力向上推進プランに基づき、学校2020レガシーと一校一取組運動を充実させるとともに、児童の体力の向上・健康の保持増進を図る教育活動を推進する。
- カ 生活安全、交通安全、災害安全、情報モラル等の指導に「安全教育プログラム」等を活用するとともに、交通安全教室、薬物乱用防止教室等の充実を図り、防災教育デーの学習等を通して命の大切さを学ぶ。
- キ 町田っ子カリキュラム「キャリア教育」に基づき、自己理解を深めさせ、児童が自分のよさや可能性を見つけ、生きる力の育成を図るキャリア教育の充実を図る。
- ク 児童一人一人を見つめ、行動の意味や求めていることを的確に理解し、児童にとって必要な支援を適切に行うように、「特別支援教育ハンドブック」等を活用し、特別支援教育の充実を図る。
- ケ 小1プロブレムや中1ギャップに対応し、幼・保・小・中の円滑な接続を意識した指導の充実を図る。

第2表の①

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動

ア 各教科

- ①町田市教育プラン24-28が目指す、「学び続ける力」の育成に向けて、児童一人一人の特性を生かした「個別最適な学び」と、相互に学び合う「協働的な学び」の一体的な授業実践を行う。そして教科等の特質に応じた言語活動や体験的な学習を通して、これからの時代に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力と人間性等の育成を図り、授業をデザインする8つの取組の4つの重点（見通しをもたせるための導入、価値ある対話の共有、振り返りの設定、ICTの活用）を踏まえた授業改善に取り組む。特に、「ICTを活用した学び」を中心に、町田市教育委員会研究指定校として「学び続ける力」の向上を研究課題に取り組んでいく。
- ②英語教育の充実のために、HRT（学級担任）とALT、MEPSとの連携、スノーピーミュージアム校外学習及びICT機器の効果的な活用を図る。さらに、引き続き「放課後英語教室」を開催し英語に親しむと共に、英語の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、言語活動を中心とした授業改善に取り組む。
- ③昨年度まで東京都体育健康教育推進校として取り組んだ、体力向上推進プランに基づいた体育科の授業改善に取組み、体力の向上を図るとともに、食育、保健学習を中心に健康教育を探究し、児童の健康の保持増進を図る。また、一校一取組、マラソン週間、連合体育大会への参加等、機会を設けると共に児童相互、他校との交流も深める。
- ④Machida Next Education（家庭学習編）を活用して、家庭の取組を推進し、さらに「学校公開」「授業参観」等を通じて家庭・地域と一体となった学力の向上を図る。さらに、タブレット持ち帰りによる学習（テレストディ）にも取り組む。
- ⑤「かないの100冊」をはじめ、朝読書、読書週間、学校図書館を活用して読書活動を推進する。また保護者による読み聞かせを一層充実させる。学校図書館貸し出し25,000冊を目指すと共に、中央図書館による「電子図書館」の活用を強化する。
- ⑤幼・保との連携を深め、生活科を中心としたアプローチカリキュラムを踏まえたスタートカリキュラムの充実をめぐる。
- ⑥金井中学校との連携の授業参観、協議会を実施し、情報交換を行うとともに、小中9年間を見通した学力向上策を推進する。

イ 特別の教科 道徳

- ①道徳教育推進教師を中心に年間指導計画を作成し、それに基づき、教科書を中心に活用し、必要に応じて東京都道徳教育教材集などの地域教材を適切に配置して、「特別の教科道徳」の時間の充実を図る。校内研修会を実施し、指導力向上に努める。
- ②「特別の教科 道徳」の時間を要に全教育活動を通して道徳教育・規範教育に取り組む、生命尊重や人間尊重の精神、自尊感情の育成を図る。
- ③「考える道徳」「議論する道徳」となるような学習の充実を図り、自己の生き方についての考えを深めるとともに、いじめに関する授業（年間3回以上実施）を確実に実施する。
- ④道徳授業地区公開講座の開催および道徳資料等の持ち帰りによる家庭との連携を図り、家庭、地域と学校が一体となり、道徳的実践力の育成を図る。

ウ 総合的な学習の時間

- ①実社会や実生活の中から課題を見付け、よりよく課題を解決しようとする資質や能力の育成を図るために、課題設定、探究、活用の一連の学習過程を徹底する。
- ②探究的な学習の過程においては、比較・分類・関連付けなどの考えるための技法や、タブレットをはじめ、ICT機器を適切かつ効果的に活用する。
- ③地域連携担当教員を中心に、ボランティアコーディネータ（VC）との連携のもと、保護者や地域の協力を得て、それぞれの学年の特徴を生かした「金井学習」を確立させ、体験的な学習や探究的な学習の充実を図り、地域を愛する児童の育成を図る。

エ 特別活動

- ①学級活動を充実させ、望ましい人間関係を形成し、心身の調和のとれた発達を促すとともに、社会参画、自己実現の視点を踏まえた集団活動を実施する。
- ②自発的・自治的な活動の充実を図る。
- ③児童会活動や異年齢によるたて割り班活動（なかよし班活動）など望ましい集団活動の展

- 開と望ましい集団の育成を通して、互いの立場を認め合い、相手を思いやる心を育てる。
- ④東京 2020 大会で創出したレガシーを児童の学びを支える取組として実践していく。

第2表の②

(2) 生活指導・進路指導（キャリア教育）

ア 生活指導

- ①生活安全、交通安全、災害安全、情報モラル等の指導に「安全教育プログラム」「防災ノート～災害と安全～」等の資料を活用するとともに、交通安全教室、薬物乱用防止教室、セーフティ教室等の充実を図り、防災教育デーの学習等を通して、命の大切さを学ぶ。
- ②いじめ防止基本方針に沿って、「いじめ」や「不登校」に対して、未然防止や早期発見・早期対応の実現のため、「心のアンケート」「不登校調査」「SCの活用」等を生かし、保護者との連携を図るとともに、学校いじめ対応チームを効果的に活用する。また、自殺予防DVD等の資料も活用し、理解を深めるとともに、SOSの発信に関しても指導する。
- ③「防災ノート」を活用し個々の知識・理解を深めるとともに、Jアラート発令時の対応についても周知を図る。
- ④教育活動全般にわたり、WBGT熱中症指標計による測定をはじめ、熱中症事故の未然防止の取組の充実を図る。

イ 進路指導（キャリア教育）

- ①小中一貫町田っ子カリキュラム「キャリア教育」（改訂版）に基づき、係活動や奉仕活動を通して働くことの意義を学ぶとともに、金井中学校と連携し、出張授業や交流活動等のキャリア教育を充実させ、社会的・職業的自立や自己肯定感の育成を図る。
- ②6年生でCAPSプログラムを実施することにより、「キャリア教育を通して育む4つの資質・能力」の向上を図る。
- ③キャリアパスポート（電子版）や「働く人の話を聞く会」（金融教育、起業家教育等を含む）等を通し、自己理解を深めさせ、児童が自らの生き方を新聞にまとめたり、考えをスピーチしたりして、生きる力の育成を図り、自己肯定感を高めていく。
- ④小1プロブレムや中1ギャップに対応し、幼・保・小・中の円滑な接続を意識した指導の充実を図る。
- ⑤ものづくり教育職場体験事業に取り組み、つくる楽しさや達成感を感じさせ、働くことへの理解や将来の自己の考察につなげる。

(3) 特別支援教育

- ①町田市特別支援教育ハンドブックを活用し、全教職員の共通理解を図り、組織的・計画的に支援を進めるとともに、合理的配慮も踏まえた適切な指導や支援の充実を図る。
- ②校内委員会を計画的に開催し、充実させる。
- ③特別支援コーディネータ、特別支援教室専門員を積極的に活用し、連携を図る。
- ④校内研修会を開催し、子どもの理解・対応について共通の認識をもつ。
- ⑤バリアフリー、ユニバーサルデザイン等、学習、生活環境を整える。
- ⑥通常の学級と特別支援学級の連携、副籍制度の児童交流や共同学習の充実を図る。

以上